

第1学年 図画工作科 授業構想シート

授業者 西原 有香莉

| | |
|---------|---|
| 本実践の主張点 | 子どもの多様な活動を誘発する場を設定することや、造形的な視点の広がりに沿った題材配列をすることで、感性豊かに自分なりの意味や価値を模索する姿が促され、創造活動への高まりが見られるだろう。 |
|---------|---|

1. 題材名 いろ・いろ ゼリー

2. 1年B組の子ども

本学級の子どもは、身の回りにあるものに対する多様な関わり合いをとおして、形や色のおもしろさを味わい、その感じ方を深める活動を経験してきた。特に、「形」に関しては、異なるアプローチをとおして、その形のおもしろさを模索する活動を行った。形集めを、プロッタージュと紙粘土での型取りの2つの方法で行ったが、その際、集めた形(作品)と、実物とを“見”比べるだけでなく、“触り”比べる姿も見られた。ものの表面に現れた凹凸の触覚からの情報と、自身が集めたもの(作品)に現れている形(模様)からわかる視覚からの情報とをつなぎ合わせながら、“形”のおもしろさを味わっていたのである。また、日常の中では、登校途中に見つけた石や葉を大事そうに教室へ持ってきたことがあった。その理由を尋ねると、「石の形がおもしろい。」「この真っ赤な色と、ぎざぎざした形がいいなと思った。」というようなことを聞くことができた。これらの姿から、全身の感覚を働かせ、身の回りにあるものの認識を深めたり、日常的に身の回りにあるものを造形的な視点で捉え、そのよさを感じたりすることができる子どもたちであると実感している。そのような子どもが、本題材では「色」のよさに迫る。色のおもしろさに関しては、感性豊かな子どもたちであることから、元より敏感に感じ取ることができると考えられる。しかし、明度や彩度、色相、色材の違いによる色の多様さへの気づきは、まだまだ乏しいと感じている。より一層色の違いを敏感に感じられると共におもしろさを味わえるようになることを願い、本題材を設定した。また、色は無限にできることから、活動を多様に広げることが可能にし、個々の表現欲求に回答できる素材である。「いいな」と思う色を試行錯誤しつくり出す経験をとおして、創造活動の高まりが見られることも期待したい。

3. 何を学ぶのか

① 題材の目標

- ・色の多様さやおもしろさに気づき、様々な色をつくり出し、組み合わせたり並べたりする。(知識・技能)
- ・色の多様さやおもしろさを感じながら活動の場所や空間を選び、色づくりや組み合わせ、並べ方を多様に試みる。(思考・判断・表現)
- ・自分にとっていい色をつくり出そうとしたり、そのよさを多様に模索しようしたりする。(主体的に学習に取り組む態度)

② 題材の価値

子どもにとって、“色”はとても魅力的である。目の前に、たくさんの色が並ぶだけで、ワクワクするものである。そのような“色”を扱う色水あそびの活動は、混色の微妙な加減により異なる色が次々とできていくことから、子どもは創造への意欲が掻き立てられると共に、自らが創造者としての可能性を感じることもなるだろう。本題材では、そのような色づくりをゼリーで行う。子どもにとって“食べ物”であるゼリーを色づくりのための道具として扱うことで、これまでとは異なる、ゼリーへの関わりをすることになる。その中で子どもは、食べ物のような道具のような不思議な感覚を味わうだろう。色づくりの道具としての曖昧さとそのおもしろさを感じつつ、赤・青・黄の三色のゼリーを混ぜ合わせる。しかし、ゼリーは水とは異なり、物質感があることから、異なる色を混ぜてもすぐに混ざることではない。ゼリーを混ぜ合わせ、粒が細くなっていくことで、ゼリー全体の色に変化する。その混色の過程においては、混ざりきっていない粒状のゼリーが所々残っている様子が見られるだろう。まるで、ステンドグラスのような色をそこに見ることができるのである。ゼリーの粒の大きさにより、色の見え方が異なることから、様々な方面からその美しさを味わうこともできる。また、異なる色同士を合わせた際、すぐに混ざることなく、色の層ができることから、異なる色の組み合わせを見ることもできる。さらに、色づくりの過程で、ゼリーの中に気泡が入ることもあり、そこに光が当たるときらきらと輝く。そういったことから、活動場所は屋内にとどまらず、屋外へも広がっていくだろう。活動の場や空間の広がりと共に造形的な表現活動においても豊かさを見せ、自分にとっての価値や意味の模索がより一層促されると考える。

以上の活動をとおして、色のおもしろさをより一層敏感に感じ取り、自らつくり出すことの喜びを感じると共に、新たな創造へと向かい続ける姿を引き出したい。そして、生活の中にある形や色など自ら関わり、生活をより楽しく豊かにしようとする子どもの姿を目指したいと考える。

4. 主張の具体

本実践では、子どもが個々にもつ感性を働かせると共に育みながら、自分にとっての意味や価値を模索しつくり出す姿を引き出したいと考える。その実現のために、子どもがどれだけ豊富な造形的な視点で対象や事象を捉えられるか、また、意味や価値の模索を支える環境が整っているかが重要であると考え。前者に関しては、造形的な視点が徐々に広がる題材の配列をすることで、本題材までに獲得してきた造形的な視点を総合的に働かせられるようにする。後者に関しては、個々につくり出した表現の課題を実現できるような場を設定し、子ども自身で選択できるようにする。また、それぞれの場がどのように活動でき、どのような価値や意味の模索ができるのか、子どもが理解できていることにも留意したい。これらの題材配列、環境設定といった間接的なしかけを行うことで、目指す子どもの姿を引き出したい。

5. どのように学ぶのか

①学習内容を理解し、資質・能力を育成するための学習過程

題材計画（全3時間） 本時 1/3 （評価方法）【評価の観点：全時間を通して総合的に評価】

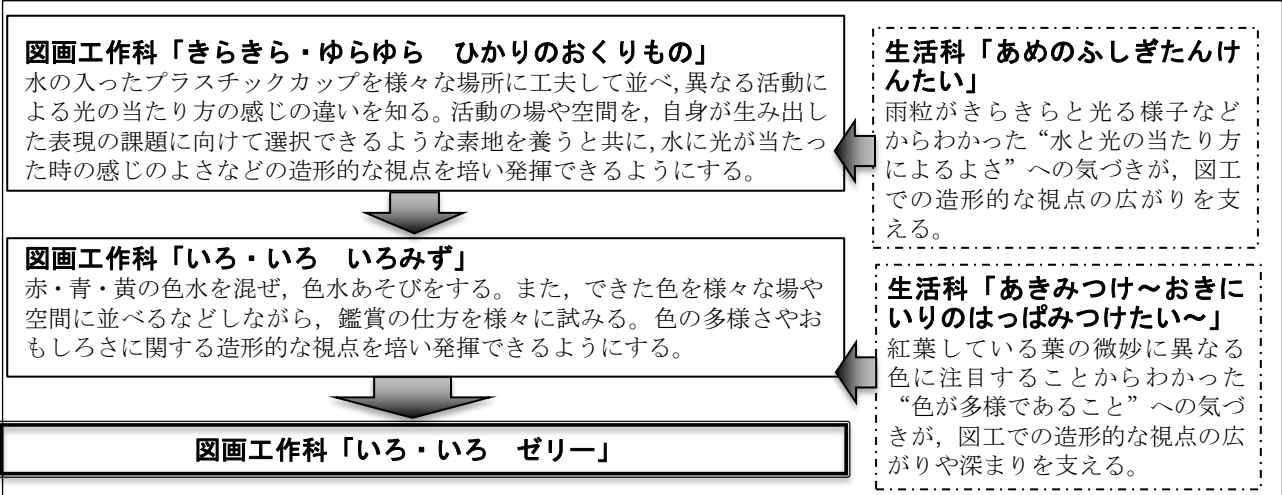
いろ・いろ ゼリー（3時間）

①いろ・いろ ゼリーをつくろう（活動の様子、作品）〔本時〕
赤・青・黄から、どんな色のゼリーができるのか、ゼリーの特質を知りながら、自分にとって「いい色」を目指して色づくりをする。

②いろ・いろ 並べて“いいな”をさがそう（活動の様子、作品）
自分や友達をつくれた色を見合うなどしながら、自分なりに、または友達と一緒に“いいな”と感じる場を選んだり並べ方を試したりする。

③とっておきの“いいな”を見つけて伝えあおう（活動の様子、タブレットの記録）
自分や友達の活動の成果物を見合い、タブレットで撮影したり感じたことを記録したりするなどし、伝えあう。

②学習内容を理解し、資質・能力を育成するためのカリキュラム・デザイン



6. 何が身に付いたか

| | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|------|---|--|---|
| 評価規準 | ①ゼリーによる色づくりや様々な活動を展開する中で、色の多様さやおもしろさに気付いている。 ②手や体全体の感覚を働かせ、ゼリーの特質を感覚的に理解し慣れると共に、場や空間のよさを感じながら、工夫して色や活動をつくっている。 | ①自分や友達をつくる色からイメージを広げ、活動の場所や空間を選び、ゼリーの特質を生かした色づくりや色の組み合わせ、色の並べ方を多様に思いついている。 ②自分や友達の活動から、色のおもしろさを感じ取り、多様に捉えている。 | ①楽しみながら、自分にとっていい色をつくり出そうとしたり、そのよさを多様に模索しようとしていたりしている。 |

図画工作科学習指導本時案

授業者 西原 有香莉

日時：令和3年11月29日（月）第3校時（10：50～11：35）

対象：第1学年B組29人

| | |
|--------|---|
| 本時の気づき | 子どもの多様な活動を誘発する場を設定することや色材としてゼリーを用いることで、色のおもしろさや多様さに気づき、より、感性豊かに自分なりの意味や価値を模索すると共につくり出そうとする姿が実現できるだろう。 |
|--------|---|

1. 本時の構想（働かせたい考え方と学習課題について）

| | | | | | |
|--|-------------------------------|-------------------------------|------------------------------|-------------------------------|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> くらべる | <input type="checkbox"/> つなげる | <input type="checkbox"/> まとめる | <input type="checkbox"/> わかる | <input type="checkbox"/> 予想する | <input checked="" type="checkbox"/> 見方を変える |
|--|-------------------------------|-------------------------------|------------------------------|-------------------------------|--|

本時は、「いろいろ（色々）ないろ（色）をつくる」ことをテーマに、赤・青・黄の3色のゼリーを混ぜることで色づくりを行う。活動が進んでいくにつれ、子どもの目の前には自分や友達によってつくり出された様々な色のゼリーが入ったカップが並んでいくだろう。自他の活動過程で生み出され続ける“色”自体や、前題材の色水における自身の色の“認識”とを「比べ」たり、色への多様な関わりにより「見方を変え」たりすることで、「色」の認識を深められるようにしたい。

2. 本時における調整場面としかけ

子どもの色の多様さへの気づきを生み出すしかけの1つは、色材をゼリーにすることである。色の多様さとは、色相や彩度、明度に加え、色材によって異なる“色の感じ”も含む。子どもは本時以前の題材「色水あそび」において、微妙に異なる色があることや混色の加減から色を様々につくり出すことができることを学んでいる。本時でも色の体験を行うが、扱う色材をゼリーにすることで、色水とは違った“色の感じ”に気づき、“色”の認識を深めていくと考える。また、ゼリーは物質感があることから、異なる色のゼリーを大まかに混ぜると、1つのカップの中に粒状の色がまばらに残った状態となり、色と色の重なりを見ることができる。さらに混ぜると、粒状の色がなくなり、色が溶け合い新たな色が生まれる。出来上がった色を同じカップに入れると、色水のようにすぐに混ざり合うことなく、色の層ができ、隣り合う色と色を見ることができる。ゼリーのもつ物質性が、色が重なり合ったり隣り合ったりすることにより感じが変わることへの気づきを生み出すと共に、表現活動の幅を広げ、自分なりの意味や価値の模索を促すと考える。

もう1つのしかけは、活動の場である。子どもの机を横一列に配置することや屋外にも活動できる場を設けることで、他者の自分とは異なる色への関わり方を知ると共に、より多くの造形的な視点(色の感じ、色と光が生み出す感じなど)から色のよさに気づくことができるようになると思う。屋外には、できた色を様々な並べ色のよさを多様に捉えなおすことができる場を設置するが、終始色づくりに没頭し本時ではそこに至らないと予想する。しかし、本時以前の題材ではその場を経験しており、光が水、又は色水に当たることで生み出す感じのよさを捉える見方を獲得していることから、教室内の活動にとどまったとしても、窓から差し込む太陽や教室の電気の光をもとに、獲得してきた見方を働かせた気づきやさらにそのよさを見つけ出そうとする姿が生み出されると考える。

これらのしかけにより、一人一人の色への多様なアプローチを支えると共に多様な気づきを生み出すことができると考える。さらに、その気づきを教師が価値づけたり子ども同士で認めあうことができる環境を整えたりすることで、子どもの創造活動を活発にし、色のよさやおもしろさにおける自分なりの意味や価値を模索すると共につくり出そうとする姿を実現したい。

3. 本時におけるめざす子ども像

初めての色材(ゼリー)で色をつくり出していく過程で、これまで扱ったことのある色材との色の感じの違いに気づくと共に、そのよさを味わいながら、自分なりに「いいな」と思う色を目指して多様に活動する姿を引き出したい。また、自分や友達のつくり出した色を様々な方向から見たり光に当てたりしながら、自他のつくり出したものの価値や意味を模索すると共に実感することで、自分なりの表現をつくり出すことの喜びを感じ、新たな創造活動へ向かおうとする姿が見られることを期待する。

4. 本時の目標

- ・色の多様さやおもしろさに気づき、様々な色をつくり出したり組み合わせたりする。(知識・技能)
- ・色の多様さやおもしろさを感じながら活動の場所や空間を選び、色づくりや組み合わせを多様に試みる。(思考力・判断力・表現力)
- ・自分にとっていい色をつくり出そうとしたり、そのよさを多様に模索しようしたりする。(主体的に学習に取り組む態度)

5. 本時の展開

| 学習活動と予想される子どもの反応 | 留意点・評価 |
|--|--|
| <p>1. 本時のテーマを知る。 「いろ・いろ ゼリー」 ○「いろ・いろ」ってことは、もう一度色水づくり？ ○ゼリーってことは食べれるのかな。</p> <p>2. 教師の演示により学習活動を知る。 ○ゼリーも混ぜると色が変わるんだ！ ○きらきらしていてきれい！ ○色水の時とちがって、混ぜないと色が変わらないんだな。</p> <p>3. 色々な表し方や活動の仕方を試しながら、色づくりをする。 ○青と赤を混ぜると、黒になったよ。透明のゼリーを入れてみようかな。 ○混ぜすぎないようにすると色んな色がコップの中にあるよ。横から見るのと、上から見るのとは、見える色が違う。 ○この色、とってもきれいだね。どうやってつくったの？ ○見てみて！水を入れて混ぜると、いろんな色がくるくるまわるよ。横から見るのがおすすめ！ ○黄色の中に、青のゼリーを入れたんだけど、緑に変わったよ。 ○光にあてるともっときれい！中のつぶつぶが光ってダイヤモンドみたい！ ○完成したゼリーの上に違う色を乗せてみよう。虹みたいになってきれいだな。 ○青のゼリーの上に黄色のゼリーを乗せると、間が緑に見えるよ。 ○できたゼリーの上に透明ゼリーを乗せると、いろんな色がうつってキラキラしてきれいだよ。</p> <p>4. できた色を見せたり活動途中で考えたこと伝え合ったりして、友達の表現や活動を知る。 ○▲▲さんに教えてもらったんだけど、こんな色がつくれたよ。 ○同じ色で、濃い・薄いのゼリーをつくってみたよ。光にあてるときれいだよ。 ○薄い色のいろんな色のゼリーをつくってみたよ。お気に入りの色ができたんだ。 ○この色の組み合わせがいいなと思ったよ。横からみると、虹になっていてきれいだよ。</p> <p>5. 振り返りをする。 ○まだまだつくりたいな。 ○外に並べてみたい！ ○つくった色の上に違う色を乗せたいな。</p> | <p>・前題材までの色づくりにおいて、多様な活動を経験してきたことを想起させ、これまでの経験を本時の活動にも生かすことができそうだという思いをもてるようにする。</p> <p>・モニターで、混ぜる様子を拡大して見せることで、ゼリーの混色の仕方を理解できるようにすることや、題材への期待感をもてるようにする。また、ゼリーのプルプルした質感を見せることで、ゼリーの特性を感じながら活動できるようにする。</p> <p>・活動が止まっていたり悩んでいたりする場合、その子の思いや発想を大切にしながら、前題材までに経験した色づくりでの活動を想起させたり、他の表現と一緒に探したりする。また、「次の試したいことを見つけるにはどうしたらいいかな？」と問い、友達の活動を参考にするなど、次に表したいことを見つけるための方法を考え、自分で活動を展開していくようにする。</p> <p>・子どもが見つけた表現や活動の“どこ”が、“どう”いいのか具体的に価値付けすることで、自身の表現の価値や意味を実感できるようにすると共に、更なる表現の追究に向かうようにする。</p> <p>・学級全体の表現活動がさらに広がったり深まったりすると予想されるような活動をする子どもが見られた場合は、全体で共有できる場を設ける。</p> <p>・自分にとって「いいな」と思う色をつくり出すために試行錯誤する姿を価値づけ、それぞれの感性に基づいた「表したい」ことの獲得とその実現に向かう姿を支える。</p> <p>・それぞれの表現のよさを、表現物と言語で伝え合うことで、活動の価値や意味の明確化を促す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>知ゼリーで色づくりをすることをとおして、手や体全体の感覚を働かせ、ゼリーの特質を感覚的に理解すると共に、場や空間のよさを感じながら、工夫して色や活動をつくっている。</p> <p>思自分や友達のつくった色から、さらにイメージを広げ、色づくりや色の組み合わせを多様に思いつきながら、色のおもしろさを様々に感じ取っている。</p> <p>感楽しみながら、自分にとっていい色をつくり出そうとしたり、そのよさを多様に模索しようとしていたりしている。</p> </div> <p>・それぞれの表現の価値や意味の実感から、次の自分なりの表現の課題を見つけ出すなど、新たな創造活動へ向かおうとする姿につながるようにする。</p> |